

漢方トゥデイ



2022年6月16日放送

使ってみよう歯科口腔領域と漢方⑥

各論：口渇に五苓散/白虎加人参湯

東京大学大学院 医学系研究科 イートロス医学講座

特任准教授 **米永一理**

(2024年4月より 日本大学歯学部 摂食機能療法学講座 主任教授)

第5回の『口内炎に半夏瀉心湯/黄連湯/茵陳蒿湯』は如何だったでしょうか。私の担当致します漢方トゥデイでは、漢方初学者の方向けに、歯科口腔領域の漢方薬を使えるようになることを目的としてお話をしております。第1回から第4回が総論、第5回から第8回が各論を予定しています。

前回からはじまった各論では、薬価基準による歯科関係薬剤点数表に記載されている11種類の漢方薬を中心に解説しています。

各論の2回目として『口渇に五苓散/白虎加人参湯』と題し、お届けします。

まずは口腔乾燥症には口渇と口乾があることについてお話をします。

口腔乾燥症も高齢社会を迎え多く経験する疾患となりました。口腔乾燥は前回お話した、口内炎や舌痛症の原因になるだけでなく、医学的にも免疫力を低下させてしまうため、改善したいところです。口腔乾燥があるとリンパ組織である扁桃が乾燥します。そうすると、鼻腔・口腔を通して侵入してくる抗原を上手に感知できず、抗原抗体反応が働きにくくなるため免疫機能が上手く働かなくなります。よって、粘膜はできるだけ乾燥させないようにすることがポイントとなります。

東洋医学では、口腔乾燥症を口渇と口乾の2つに分けて考えます。どちらも保険病名としても記載されており、口渇は口の中が乾燥して水を飲みたがる状態であり、口乾は口が乾くけれ

ど少し湿らせる程度でよく、特に水を飲まなくてもよい状態です。

厳密には『証』を確認し、病態を分けて考えるとよりベストですが、高齢者では口渴と口乾が混合している場合もあります。よって、お口に潤いを与えるイメージの漢方薬の使い方は、口腔乾燥症として、まずは使ってみて効果がなければ投薬内容を変更するのが良いと思います。

ではさっそく五苓散についてです。

口腔乾燥症患者に対し、歯科保険収載薬の中でまず使用をお勧めするのが、五苓散です。そして、この五苓散は、私が多く処方している漢方薬の一つでもあります。

五苓散は主にアクアポリン4に働き、体の水分のバランスを保ってくれるお薬です。人の体はおよそ60%が水分でできています。五苓散は、この60%のバランスをとってくれ、水をあるところから、ないところへ移動させることができます。つまり体の大部分の調整をしてくれるため、様々な疾患に適応があります。よって、救急の現場でも使用しやすい薬です。ちなみに、西洋薬では水のバランスが悪くなった時に、水を直接移動させることができるのは、利尿薬しかありません。しかも利尿薬は、尿を出すことはできますが、体の中の水のバランスはとってくれず、飲ませ過ぎると脱水になるなどの副作用があります。これが総論でお話した西洋薬が基本的に1対1対応であることによる欠点です。

救急に来られる患者には、嘔吐、下痢、末梢性眩暈、多飲（二日酔い）、頭痛などがありますが、これらの多くは水のバランスが悪くなった状態です。例えば嘔吐・下痢は、排出する水はあるのに、体は脱水状態となります。これらに対し一般的によく処方される嘔吐に対する制吐薬は、腸管運動を高めることで、嘔吐物を無理やり胃から腸へ流し込むだけです。また下痢に対する止痢剤は、腸管の動きを無理やり止めて、便が出ないようにするだけです。胃腸炎や食中毒などでは嘔吐後、下痢になりますが、制吐薬で嘔吐を止めて、その後止痢剤で下痢を止めると、菌はいつまでたっても体内にのこり、何をしたいのかわからずに状態になります。よって、一般的に重症でなければ、嘔吐・下痢があった場合、『水分をしっかりとって下さいね』と言われ、整腸剤のみが出されます。整腸剤も名前はいいですが、所謂ビフィズス菌などの善玉菌です。善玉菌を腸管内に増やすことで、嘔吐・下痢を起こしている菌やウイルスを追いやることを目的としていますが、多くが市販の整腸剤と大差ありません。つまり、西洋薬では根本的な治療は何もしておらず、体が自然回復するのを待っているだけとも言えます。

さらに、嘔吐の原因には、最も多い急性胃腸炎だけでなく脳血管疾患・敗血症・めまい・腫瘍・イレウスなど様々な可能性があります。仮にイレウスに制吐薬を使用すると、症状を増悪させる可能性があり、禁忌となります。よって、診断をきちんとしてからでないと、西洋薬は使用し辛い傾向にあります。一方で五苓散はあくまで水のバランスをとるので、診断がつかなくても嘔吐に対し使用することができます。

この他にも五苓散は、末梢性眩暈、二日酔い、車酔い、浮腫、頭痛など様々な水のバランスが悪くなった病態に、急性期には1回2包、慢性期には1回1包使用します。よって、五苓散は、口腔内の水のバランスが崩れる口腔乾燥症でも使用することができ、特に、歯痕がついているような舌の浮腫みがあるような方には著効することがあります。

また、五苓散は第4回でお話しした主な副作用の原因となる生薬が含まれておらず、薬の飲み合わせや投薬期間をあまり気にすることなく、基本的に安心して投与することができるため、使いやすいです。

次に白虎加人参湯についてです。

熱がこもって上手く水の移動ができなくなっていることによる口渇、口腔乾燥症には、白虎加人参湯が効く場合があります。

皆さんも、更年期障害などで、『顔や体幹が火照っているのに、手足が冷たい』との訴えを聞いたことがあるかと思います。火照りは、東洋医学的には、熱がこもった状態で、水が流れない水滞の状態でもあります。

この白虎加人参湯は、こもった熱、火照りを急激に冷やして、水の流れをよくしてくれ、結果と口腔を潤してくれます。よって、火照りのある更年期などの口腔乾燥症だけでなく、熱がこもることによって、神経質となっている場合の口腔内の苦みなどを訴える方にも有用であることがあります。

さらには、熱がこもることによっておこる。皮膚の乾燥症、急性皮膚炎、アトピー性皮膚炎、尋常性乾癬などの皮膚科疾患にも使用することができます。

なお、薬価基準による歯科関係薬剤点数表に記載されていませんが、口渇ではなく、口乾に使用しやすい漢方薬として、麦門冬湯があります。これは唾液腺に主にあるアクアポリン5を中心に働きます。口腔や咽頭、気管を潤してくれるため、咳止めとしてもよく使われます。つまり、口腔乾燥症だけでなく、咽頭炎や気管支炎に使用されることも多いです。妊婦にも安全とされており、幅広い年齢層に使いやすい漢方薬です。

ただし、白虎加人参湯と麦門冬湯は、生薬として甘草を含んでいるため、偽アルドステロン症などの副作用の発現がないかの観察が必要となります。

これらのように漢方薬は、水の分布改善をはるため、浮腫などの水の過剰と、乾燥などの水の不足が併存する場合、また全身の状態と局所の状態が異なる場合などに対応することができます。

以上、お口にうるおいを与える漢方薬のイメージをまとめますと

五苓散は、水のある所からない所に移動させ、体液のバランスをとってくれるイメージ、
白虎加人参湯は、体の熱の偏りを改善させることで、体液のバランスをとってくれるイメージ、
となります。

ではお時間のようです。

今回は、口渇・口腔乾燥症に対する漢方薬を中心にお伝え致しました。歯科口腔領域の漢方にさらに興味を持って頂けたでしょうか。本シリーズでは、続けてお聞き頂くことで、漢方薬の楽しさを感じて頂き、漢方を使って頂けるようになればと思います。次回は、各論の3回目として、歯痛、抜歯後疼痛、化膿症に対する漢方薬を中心にお届けします。